

## メッセージアウトライン

### 詩篇 32 : 1～11 「 幸 い な 人 」 ダビデによるマスキール

「マスキール」の詳しい意味は不明。知恵または教訓の詩の意味ではないかと思われる。

[1-2] 「幸いなことよ その背<sup>そむ</sup>きを赦され 罪をおおわれた人は。

幸いなことよ。主が咎<sup>とが</sup>をお認めにならず その靈<sup>あざむ</sup>に欺<sup>あざむ</sup>きのない人は」

「幸いなことよ」は祝福された状態を表すことば。具体的には罪を赦されたことから来る実感。ここに人間の罪を表す四つのことばが出てくる。「背<sup>そむ</sup>き」…神の権威に対しての反逆。「罪」…神および神が人間のために備えられた道を見失い、神に従わず、自己中心となり、的外れの生き方からくる結果としてのもの。「咎<sup>とが</sup>」…不義、神の義<sup>ただ</sup>しさになかなわないこと。「欺<sup>あざむ</sup>き」…罪の結ぶ実の一つ。偽りだますこと。このようなことばの繰り返しは罪の赦<sup>ゆる</sup>しというものが人の生涯において重要な意味を持っていることを示している。この罪の赦<sup>ゆる</sup>しは神の全く自由な恵みによる。私たちのうちにある何らかの良きもの、行い、業績、能力等よるものではない。

[3-5] 「私が黙<sup>だま</sup>っていたとき 私の骨は疲れきり 私は一日中うめきました。

昼も夜も 御手<sup>みて</sup>が私の上に重くのしかかり 骨の髓<sup>ずい</sup>さえ 夏の日照<sup>かわ</sup>りで乾ききったからです。私は自分の罪をあなたに知らせ 自分の咎<sup>とが</sup>を隠しませんでした。

私は言いました。『私の欺<sup>あざむ</sup>きを主に告白しよう』と。すると あなたは私の罪のとがめを赦してくださいました。』

「骨」…自分自身を支える中心。「御手が」…神の刑罰が。「骨の髓」…骨の中であって生命活動に不可欠な部分。それが、かわききったということは罪の意識の深刻さが肉体にまで及んだということ。告白しない罪は重荷であり、健全な人をも病的にする。ダビデはこの苦痛を味わっていた。罪の解決は人間の側でどんなに工夫してもできない。ただ神に対して、それを告白することから始まる。彼がそのようにした時、主なる神は彼の罪のとがめを赦されたのである。→ I ヨハネ 1 : 9

4, 5, 7 節末尾の「セラ」は音楽的な休止符と考えられている。

[6-7] 「それゆえ 敬虔な人はみな祈ります。あなたに向かって あなたがおられるうちに。大水は濁流となっても 彼の所に届きません。あなたは私の隠れ場。あなたは苦しみから私を守り 救いの歓声で 私を囲んでくださいます」

ダビデはこのように自分が罪を赦されたことの経験から、それをすべての敬虔な人（信仰者）に適用する。「大水の濁流」…絶望的な苦難の比喻。「届きません」…神が守ってくださる。

それゆえ、彼は「救いの歓声をあげる」ことができるのである。

[8-9] 「私は、あなたが行く道で あなたを教え あなたを諭そう。あなたに目を留め 助言を与えよう。

あなたがたは、分別のない馬やらばのようであってはならない。くつわや手綱 そうした馬具で強いるのでなければ それらは あなたの近くには来ない」

馬やらばは本能のおもむくままに行動する動物で、自ら進んで従うことができない。くつわや馬具は、しいて服従させるための道具で、そのような痛い目に会わなければわからないような愚かな者になってはいけない。信

仰者は自ら進んで主に聞き従い、主にそむき、罪を犯した時は、その罪を告白して赦しを得て、再び主に従うことが大切である。

[10-11]「悪しき者は心の痛みが多い。しかし 主に信頼する者は、恵みはその人を囲んでいる。正しい者たち 主を喜び 楽しめ。すべて心の直ぐな人たちよ 喜びの声をあげよ」

ここでは悪しき者と主に信頼する者との対比がなされている。

悪しき者には「心の痛みが多い」…罪のゆえの心の痛み悲しみ。これはどれだけ外見的には力があり、繁栄しているように見えてもそうなのである。しかし、主に信頼する者はそうではなく、恵みが、その人を取り囲み、豊かに祝福される。これは歴史上の事実であり真理である。

神はそのひとり子イエス・キリストを処女マリアの胎から生まれた人としてこの世に送り、その十字架の死によって私たち人間の罪を贖ってくださった。このイエス。キリストの死は自分の罪のためであったと信じ告白する者は誰でも罪赦され神のものとされるのである。しかし、信仰者であってもこの地上にある限り神の前に様々な罪を犯す。

主の前に正直にそのことを告白して、赦しきよめていただくことが大切である。金持ちや権力者、この世で力ある者が幸いなのではなく、主に対する背きを赦され、罪をおおわれた人こそ幸いな人なのである。私たちもこのことをよく自覚し、この一年の守りと導き、多くの恵みを心から感謝しつつ、これからも信仰の歩を進めていきたい。